

2021年10月20日

各 位

会 社 名 アジア開発キャピタル株式会社
代表者名 代表取締役社長 アンセム ウォン
ANSELM WONG

株式会社東京機械製作所に対する

「貴社の当社らに対する2021年10月19日付け追加質問に対する当社の対応方針及び
当社の貴社経営陣に対する追加質問について」の郵送及びFAX送信に関するお知らせ

当社らは、本日、株式会社東京機械製作所に対し、別紙の「貴社の当社らに対する2021年10月19日付け追加質問に対する当社の対応方針及び当社の貴社経営陣に対する追加質問について」の郵送及びFAX送信を行いましたので、お知らせいたします。

以 上

2021年10月20日

株式会社東京機械製作所
代表取締役社長 都 並 清 史 殿

アジアインベストメントファンド株式会社
代表取締役社長 アンセム ウォン シュウセン
アジア開発キャピタル株式会社
代表取締役社長 アンセム ウォン シュウセン

貴社の当社らに対する2021年10月19日付け追加質問に対する当社の対応方針
及び当社の貴社経営陣に対する追加質問について

拝啓 時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

貴社は、当社ら（以下では、アジア開発キャピタル株式会社を「当社」といいます。）に対し、2021年10月19日付けで追加質問を行っております。これに対し、当社らは、速やかに精査し真摯に回答し、これを貴社の株主に向けて開示いたします。

一方で、当社らは、貴社経営陣に対し、2021年8月26日付け回答書(3)（当社の同日付け適時開示書面「株式会社東京機械製作所との面談実施の決定及び2021年8月24日付け同社の適時開示に対する当社の見解」に別紙として開示しております。）により、具体的事業計画等を貴社株主に向けて開示するように求め、さらに、同年9月2日付け通知書（当社の同日付け適時開示書面「株式会社東京機械製作所の2021年8月30日付け固定資産譲渡及び特別退職金支出に係る適時開示に対する当社の見解」に別紙として開示しております。）及び同年10月1日付け質問状（当社のホームページにおいて開示しております。）においても、具体的事業計画を開示するように繰り返し求め、それとともに、貴社の企業価値や株主共同の利益に関わるいくつかの質問をさせていただき、その回答を貴社株主に向けて開示するように求めました。

当社らのこのような求めは、同月22日開催予定の貴社の臨時株主総会における貴社株主の皆様のお判断（貴社の企業価値や株主共同の利益についての御判断）に資するという目的で行ったものでございます。

しかしながら、貴社経営陣は、同月11日付けホームページ開示「当社機関投資家株主との対話状況に関するお知らせ」において、中期的な事業計画の開示は2022年1月を目途として行うこと（裏を返せば、現時点においては、開示に耐え得るような具体的事業計画を有していないこと。）、そして、当社らの質問に対しては「真摯に回答をするべきものであるとは認

識しておりません」と述べて、回答・開示について消極的な姿勢を示されております。

貴社経営陣のそのような姿勢は、大変残念であり、当社らは、貴社の議決権割合の 40.2% を保有する筆頭株主として、遺憾の意を表明させていただきます。

また、当社らは、貴社に対し、追加で、以下の事項を質問いたしますので、回答・開示をしていただきますようお願いいたします。

5. 貴社らによる当社株式の取得について

貴社株式会社東京機械製作所、貴社代表取締役社長の都並清史、氏及び貴社代表取締役会長の青木宏始氏は、2021年9月16日、当社の株式を1単元（100株）ずつ合計3単元（300株）を取得しています。

当社といたしましては、上場会社として、投資者の皆様にご当社株式を取得していただくことは大変ありがたいことであると認識しております。しかしながら、貴社及び貴社代表取締役2名が、貴社が当社らを標的とする対抗措置の発動を決定した直後のタイミングで、同時に、当社の株式を1単元ずつ取得されているため、当該株式取得には、当社の応援又は純投資目的以外の目的があるのではないかとの疑いを払しょくすることができません。

そこで、貴社及び貴社代表取締役2名が、どのような目的で当社の株式を1単元ずつ取得されたのかについて、具体的に御説明ください。

以 上